令和７年産水稲における高温対策のポイント

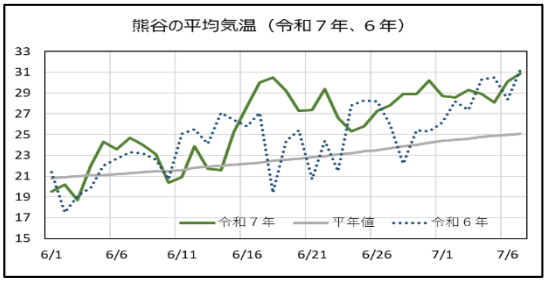
令和７年７月１４日
埼玉県　農林部

熊谷の６月の平均気温は平年と比較して2.9℃高くなっています。７月の気温も高いと予報されていることから、水稲の生育ステージが前進化し、また肥料切れの進行が予想されます。タイミングを逸しないよう、適期に追肥や防除を行いましょう。

１ 気象状況

熊谷の６月の平均気温は平年に比較して＋2.9℃とかなり高くなっており、高温年であった昨年６月の＋1.5℃よりも高く推移しています。

７月３日気象庁発表の１か月予報では平均気温は80%の確率で高いと見込まれています。



２ 高温対策のポイント

「コシヒカリ」や「彩のきずな」などの中早生品種は、高温下では幼穂形成期や出穂期が早まりやすくなります。早期栽培の「コシヒカリ」では出穂期が平年に比べ２～３日早まっています。また、晩生品種の「彩のかがやき」でも、高温により幼穂形成期から出穂期までの期間が短くなります。出穂期を基準とした追肥や防除の作業適期が早まる可能性が考えられますので、生育状況をよく観察し適期作業に努めましょう。

(1) 穂肥の施用

ア．早植栽培（５月移植）の穂肥施用

農業技術センターの５月 20 日植「彩のかがやき」は、高温多照により生育は旺盛で、葉色は「４」(群落）を下回っています。また、葉位の進展も平年に比べ 0.8 枚早く進み、出穂が早まることが予想されます（６月 30 日現在)。

ほ場をよく観察し、葉色が「４」を下回った場合は、必ず穂肥を施用しましょう。

施用時期は、「彩のかがやき」では出穂前 23～22 日頃、「彩のきずな」では出穂前 25～23 日頃です。幼穂長の目安は 1～２㎜ です。窒素成分で３～２kg/10a 程度を施用しましょう。

高温下では一発施肥体系においても緩効性肥料の溶出が早まり、穂肥としての効果が不足する可能性があります。葉色が「４」を下回ったら上記に沿った追肥を検討しましょう。

イ．普通期栽培（６月移植）の穂肥施用

高温等により葉色が「４」を下回った場合は、必ず穂肥を行いましょう。

施用時期は、「彩のかがやき」、「彩のきずな」ともに出穂前 25 日頃で、窒素成分で２kg/10a 程度を施用しましょう。幼穂長の目安は 0.5～１㎜ です。詳しくは、当センターＨＰの「彩のかがやき」や「彩のきずな」の栽培指針をご覧ください。水田高度利用担当 - 埼玉県（saitama.lg.jp）

(例)「彩のかがやき」穂肥施用時期の目安

田植時期	出穂期	穂肥時期
5月20日頃	8月10日頃	7月17日頃
6月10日頃	8月18日頃	7月26日頃
6月20日頃	8月22日頃	7月29日頃

（7月8日現在）

（２）水管理

高温の影響で分げつの発生が多く、過繁茂となることが予想されます。普通期栽培では、有効茎数を確保したら速やかに小ひびが入る程度に中干を行いましょう。

出穂期以降は、田面近くの「うわ根」が活動の主体となるので、各作型とも根の活性維持のため、出穂後７日以降は間断かん水を行いましょう。一方、用水のかけ流しは、用水不足を招く恐れがあるので行わないようにしましょう。

３ イネカメムシの防除対策

各地でイネカメムシ成虫のほ場への飛込みが確認されています。県では、７月３日に病害虫発生予察注意報を発表し、防除対策の徹底を呼びかけています。防除適期は、①出穂期～穂揃い期（不稔対策）と②出穂期の８～14 日後（斑点米対策）の２回です。

出穂期の防除まで期間があるほ場で、多数のイネカメムシが見られる場合には、農薬の総使用回数に注意して防除を行ってください（繁殖防止、拡散防止）。

埼玉県 HP：イネカメムシ防除資料